ご安全に！基幹労連の工藤です（７）

「労働者福祉活動について思う事」

ご安全に！基幹労連の工藤です。労働組合は全労済や労働金庫などの労働者福祉活動を積極的に推進しています。実はこれらの活動は労働運動のもっとも基本となる考え方、「喜び、苦しみを皆で分かち合う」活動でもあります。

全労済の推進する団体生命共済は、主に各々の共済へ加入する組合員の掛け金で成り立っています。組合員やその家族に、もしもの事があった時に支払われるものですが、団体生命共済に加入するという事は一言でいうと「同じ共済に加入する組合員を助ける」という事に繋がります。すなわち「個人にとって、どのような保険・補償内容となっているか」といった考え方からではなく、共済とは仲間を「どのように助けることが出来るか」「どこまで苦しみを分かちあう事が出来るか」という発想から検討すべきものなのです。したがって、過去に病歴があり一般的な保険ではとても入ることが出来ないような方でも、可能な限り仲間の「共済」へは加入できるよう考えられています。**これが共済と保険の決定的な差です。**

共済の加入範囲、すなわち「喜び悲しみを分かち合う範囲」はモノによって、職場、企業連・単組、産別など様々です。みなさんの職場の周りには、入院されたり、家が火災となったり、進学する子供を抱えていたり、マイホームを建てようとしていたり、車を購入しようとしていたり、病気で苦しんでいたり、様々な喜び悲しみに満ちていると思います。日々の生活の中で一番近い組合員の仲間を共に支えていこう、というのが「共済」の思いです。

同様に労働金庫などにお金を預けるという事は、各種ローンを利用したい全国の組合員を支える事となります。

もちろん、組合員の皆さんの浄財を集めて運用するわけですから、市場を見て、ニーズを確かめてより良い内容にしていかなければなりません。

さらに、勤労者福祉の諸制度はある一定の加入者がいなければ制度として運用することが出来ません。今後、組合役員が全労済や労働金庫などの推進に回ってきたときには、保障の内容はもちろんですが、「職場の仲間と喜び悲しみを共有する」といった観点から検討して頂きたいと思います。

以　上

２０１５年1月２０日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長　工藤 智司